水産科学の分野で活躍する女性たち 24

Dynamic Women@Fisheries Science 24

勤続 12 年目

橋 本 加奈子

千葉県水産総合研究センター

KANAKO HASHIMOTO

Chiba Prefectural Fisheries Research Center, Minamiboso,
Chiba 295-0024

私は千葉県の職員として水産総合研究センターに勤務しています。夫も千葉県の職員で、子供は小学1年生の娘と保育園年中児の息子の2人です。両親とは同居していませんが、仕事が忙しい時は1か月に数日手助けをしてもらっています。今年で勤続12年目です。現在に至るまでの状況を紹介します。

私の母も叔母も結婚してから働いていたので、私は小さい頃から女性も仕事を持ち、働くものだと思っていました。叔母は研究所に勤めており、その姿を見て研究職に憧れていました。旧東京水産大学に入学し修士課程まで進みました。修士課程では連携大学院の制度を利用して中央水産研究所の山下倫明先生の御指導を受け、遺伝子解析による魚類のストレス耐性機構解明についての研究を行い、多くのことを教えていただきました。研究を職業にするにあたり研究の喜びや苦勞を知り、自分にできるのかと悩む時期もありましたが、研究という素晴らしい仕事に携わっていきたく強く思うようになりました。

その後、千葉県の職員として採用され、水産総合研究センター資源研究室に配属になり、アワビなどの磯根資源の研究を4年間担当しました。フィールド調査は初めてだったので、戸惑うことも多くありました。また、真冬に1日2回潜水調査をすることもあり、体力的につらく忙しかったのですが、幸いにも周りには頼りになる上司や先輩方がいたため、助けられながら仕事に励み、充実した毎日でした。就職してから4年目の秋に結婚し、すぐに妊娠しました。秋から冬にかけてアワビの産卵期なので潜水調査する予定でしたが、潜ることができず先輩方の力を借りて調査をすることになりました。結婚も妊娠も嬉しかったのですが、迷惑をかけながら働く事の申し訳なさや仕事ができないことに焦りを感じていました。職場の配慮もあり、妊娠してからはセンター内の企画調整室に異動になりました。子供も無事生まれ1年後に復帰しましたが、すぐ第二子を妊娠したため、今度は館山水産事務所に異動になりました。出産後、館山水産事務所に復帰し、漁業許可等の担当になりました。勤続8年目になるにもかかわらず行政職は初めてで初歩的な

調査を終え帰港した調査船ふさみ丸での作業

ことも分からず、自己嫌悪に陥る毎日でした。しかし、ここでも周りの上司や先輩方の温かい御指導のおかげで何とか仕事をこなしていくうちに3年が過ぎました。漁業の制度について知識を得た事、漁業者の方々に漁業の状況を聞き取った事は大変勉強になりました。仕事にも慣れてきた頃でしたが、研究職を希望していたこともあり、昨年の4月に研究センターに配属になりました。今は、研究センターの流通加工研究室で市場の衛生調査や魚の付加価値向上のための加工に関する業務を行っています。主な研究テーマはサバの生食用冷凍品に関することです。自分なりに頑張っているところですが、まだまだ修行が足りないこともあり、優しい上司や先輩方に助けられ何とか毎日働いている状況です。

勤続12年目までを振り返って考えてみると、結婚と出産が私にとって大きな転機になりました。研究職を離れる時は寂しい気持ちがあったり、子育てしながら仕事をしていると思うように仕事が進まず悔しさを感じたりしますが、家庭を持ち家族ができたことは心の安定につながりました。家に帰り子供たちから元氣をもらったり、仲間から励まされたり、出産及び子育てに対する職場の配慮により仕事を続ける事が出来たと思います。また、行政職に就いたことは、水産業界を様々な角度から見られるようになり、非常に良い経験になったと思います。結婚、出産、育児等で不安なこともありましたが、日々一生懸命過ごして行くことで、その先の道につながっていくのではないかと思います。女子学生の皆さんの中に研究職を目指している方がいて、将来に不安な事があっても自分の信じた道を進んでいただきたいと思います。きっと努力は報われると信じています。私も、まだ乗り越えなければいけない壁が幾つもあると思いますので、これからも家庭と仕事のバランスを取りながら、日々精進していきたいと思っています。